

一般国道432号道路改良工事予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書 I

安田古墳群1号墳
外輪谷横穴墓群12号穴

平成11(1999)年3月

島根県八雲村教育委員会

一般国道432号道路改良工事予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書 I

やす だ
安田古墳群1号墳
そと わだに
外輪谷横穴墓群12号穴



平成11(1999)年3月

島根県八雲村教育委員会

序

八雲村教育委員会では、島根県松江土木建築事務所の委託を受けて、平成6年度より一般国道432号道路改良工事予定地内（八雲村東岩坂地区）に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施しておりますが、このほど調査報告書第Ⅰ集を刊行する運びとなりました。

本報告書は平成6年度に行った安田古墳群1号墳、外輪谷横穴墓群12号穴の調査成果をとりまとめたものです。

平成6年8月より開始しました現地調査は、島根県教育庁文化課（現在文化財課）の指導を頂きながら慎重に実施しました。本調査は、八雲村教育委員会の川上昭一社会教育係主任主任を中心として、多数の村民の方々の熱心な御協力を頂きながら発掘を進めました。

この調査では、横穴墓1穴、加工段1段、焼土坑1個などが発見され、貴重な研究資料を得ることができました。

本調査によって、当時の状況が漸次明らかになって参ることは、まことに喜ばしいことではありますが、貴重な文化遺産が消えていくことに関しましては、誠に心寂しいものを覚えます。

本調査を実施するにあたりまして、東森市良先生のご指導はもとより島根県教育委員会文化財課から賜りましたご指導ご助言、また、直接発掘調査に御協力いただきました多数の村民の皆様に衷心より敬意と感謝の意を表します。

平成11年3月

八雲村教育委員会
教育長 泉 和夫

例　　言

1. 本書は、島根県松江七木建築事務所の委託を受けて、八雲村教育委員会が平成6（1994）年度に実施した、一般国道432号道路改良工事予定地内埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2. 本書で扱う遺跡の所在地及び調査面積は次の通りである。

[安田古墳群1号墳]

島根県八束郡八雲村大字東岩坂398-2番地外2筆 86m²

[外輪谷横穴墓群12号穴]

島根県八束郡八雲村大字東岩坂3406-4番地 2,168m²

3. 調査組織は以下の通りである。

[平成6年度] 現地調査

調査主体 八雲村教育委員会 教育長 佐原通司

調査指導者 東森市良（島根県立安来高等学校教諭）

広江耕史（島根県教育庁文化課文化財保護主事）

事務局 伊野憲次（教育次長）、藤田節子（嘱託）

調査担当者 川上昭一（社会教育係主事）

作業員 安部当子、安部益子、石倉和義、石倉恒雄、石倉睦子、石原操子、石原多鶴

石原政子、稻田慎平、佐藤五月、武田裕子、田中和美、春名民子、深津泰久

藤原秀子、横本静江、山崎シマ子、山根隆、山根利子

遺物整理 深津光子、福永クルミ

[平成10年度] 報告書作成

調査主体 八雲村教育委員会 教育長 佐原通司（前任）— 泉和夫（後任）

事務局 長島幸夫（教育次長）、藤田節子（嘱託）

調査担当者 川上昭一（社会教育係主任主事）

遺物整理 田中和美（調査補助員）、深津光子（調査補助員）、高尾万里子、武田裕子

4. 発掘調査及び報告書の作成にあたっては以下の方々から有益なご助言を頂いた。記して感謝の意を表する。() 内は平成6年当時。

西尾克己(島根県教育庁文化課埋蔵文化財調査センター)

大谷晃二(島根県立風土記の丘資料館)

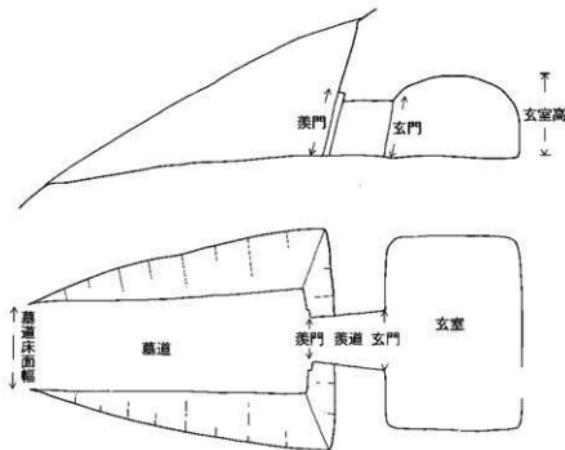
5. 本書で使用した方位は磁北を示す。

6. 本書に掲載した「遺跡位置図」は建設省国土地理院発行のものを使用し、「調査区配置図」は松江土木建築事務所の工事図面を墨書きして使用した。

7. 本報告書の編集と執筆は、上記の調査指導者や協力者の指導と助言を得ながら川上が行った。

8. 本遺跡出土遺物及び調査記録は八雲村教育委員会で保管している。

9. 本書で使用した横穴墓の各部の呼称は次の通りである。(島根県教育委員会「高広遺跡発掘調査報告書」1984年の横穴墓模式図と部位名称を一部改変して使用した。)



目 次

I 位置と環境	1
II 調査に至る経緯	3
III 安田古墳群1号墳	7
1. 調査の経過と概要	9
2. 1号墳	9
3. 性格不明遺構	11
4. 小結	11
IV 外輪谷横穴墓群12号穴	13
1. 調査の経過と概要	15
2. 12号横穴墓	17
3. 加工段	21
4. 焼土坑	22
5. 遺構外出土遺物	22
6. 小結	24

I 位置と環境

八雲村は松江市の南郊、東経 133° 、北緯 35° に位置し、東を八束郡東出雲町、西を大原郡大東町、南を能義郡広瀬町に囲まれた東西8km、南北10km、面積約55.41km²の山村で、総面積の80%以上が山林にあたる。村の中央を意宇川が北流し中海に注いでおり、これに流れ込む数本の小河川が合流する下流部に平野が展開している。

遺跡は本村の北側、この川と平野を取り囲む地域に集中し、下流に向かうほど密集する。今回調査を行った安田古墳群1号墳（1）・外輪谷横穴墓群12号穴（2）も、東岩坂川下流域に展開する平野に面した丘陵、及び斜面に位置している。

昭和52（1977年）年度に村内の遺跡の分布調査を行い、主要遺跡についてその概要をまとめた『八雲村の遺跡』によると、安田古墳群は「親丘陵から派生した舌状の低い支丘上にあり、径4m、高さ0.5mの1号墳と径6m、高さ0.4mの2号墳の2基の円墳により構成されている。」とあり、また、外輪谷横穴墓群であるが「安田古墳群西方の丘陵斜面に位置し、開口しているものだけで11穴を数える。」と述べられている。

周辺の遺跡としては、古墳時代の遺跡がほとんどを占めるが、少し離れた南西にある熊野空山山頂に、前期旧石器時代と考えられている空山遺跡が存在する。握斧、握椎と推定される石器が、洪積層の崖面から検出され、また、玉髓や瑪瑙の半製品が道路の掘削面より採取されている。同遺跡からは縄文時代に属する石鏃や石匙が発見されており、縄文時代中期頃まで人々の生活の舞台となっていたことが認められている。しかし、本村では弥生時代中期までの遺跡、遺物はほとんど知られていない。

弥生時代後期の遺跡としては、折原峠遺跡（59）が存在する。後世の掘削により大部分が失われているが、堅穴住居跡と考えられる構造から九重式の臺が山上している。折原峠遺跡から50m北西の同丘陵には、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の堅穴住居跡5棟が見つかった折原上堤東遺跡第II調査区（52）が位置する。

古墳時代前期の遺跡としては、3基の方墳からなる小屋谷古墳群（9）が存在する。内部主体は箱式石棺、壺棺及び組合式木棺であり、副葬品としては3号墳の組合式木棺内から刀子1本と四葉鏡1面が山上している。

中期以降では増福寺古墳群（28）・上井古墳群（27）などの古墳群が、平野東の低丘陵上に分布している。増福寺古墳群は一辺6.0～14.5mの方墳26基によって構成されている。調査されたうち20号墳の西側平坦面からは、古式の子持甕が出土し、古墳の時期を知る上で注目される。上井古墳群は、増福寺古墳群の北に造営されている古墳群で、一辺8m前後の方墳13基以上によって構成されている。この時期の住居跡には、安田古墳群の位置する原丘陵の南側斜面に折原上堤東遺跡第I調査区が存在する。方形の堅穴住居跡4棟が見つかり、このうちS I -03からは泥岩製有孔円板4

点が出土し、住居内祭祀の遺構として知られている。

古墳時代後期に入ると、山雲地方東部に多い石棺式石室をもつ雨乞山古墳（25）が平野北東にそびえる雨乞山南麓に造られた。墳丘は現状で7.5m×8m、高さ2.5mを測り、方墳と考えられる。意宇川下流域の古墳の影響を受けたこの古墳は、八雲村最大規模の石室を有し、この地域の有力な豪族の存在が窺われる。一方、家族墓的な性格をもつ横穴墓については四歩市横穴墓群（32）が、増福寺古墳群の南側の丘陵山腹に分布する。四歩市横穴墓群は、確認できる横穴だけで24穴を数え、平面プランはおおむね方形で、天井は丸犬井形をなしている。

奈良時代における当遺跡周辺は、『山雲国風上記』の意宇郡人草郷に属し、意宇川下流域の松江市大草町には出雲國守や意宇郡家が置かれていた。

【参考文献】

「空山遺跡発掘調査概報」	八雲村教育委員会	1972年
「八雲村の遺跡」	八雲村教育委員会	1978年
「土井13号墳発掘調査報告書」	八雲村教育委員会	1979年
「御崎谷遺跡・小屋谷古墳群発掘調査報告書」	八雲村教育委員会	1981年
「増福寺古墳群発掘調査報告書」	八雲村教育委員会	1981年
「増福寺古墳群発掘調査報告書」	八雲村教育委員会	1982年
「外輪谷（谷口区域）試掘調査報告」	蓮岡 法暉	1988年
「折原上堤東遺跡発掘調査報告書」	八雲村教育委員会	1994年
「折原峠遺跡終了報告」	八雲村教育委員会	1994年

II 調査に至る経緯

一般国道432号道路は、広島県竹原市を起点とし、鳥取県米子市を経由して松江市で国道9号に接続する総延長208km（県内延長70km）を測る道路であり、中国縦貫自動車道に連結する筋骨道路として沿線各地域の開発、産業、文化の交流を促進するために非常に重要な役割を果たしている。

特に、八雲村においては近年新興住宅地として人口が増加する中、地域の活性化を支える基幹道路として、この路線の重要性が増してきている。このため、島根県松江土木建築事務所では地形的な制約のある松江市、広瀬町に優先して八雲村東岩坂地内から日吉地内の約8.1km区間をバイパスで整備することになった。

この事業に先立ち、平成4年12月17日に松江土木建築事務所より島根県教育庁文化課あてに、八雲村別所地区から日吉地区にかけての3.0km区間における埋蔵文化財有無についての照会があった。文化課より連絡を受けた八雲村教育委員会では、平成5年1月22日に合同で対象地の分布調査を実施した。

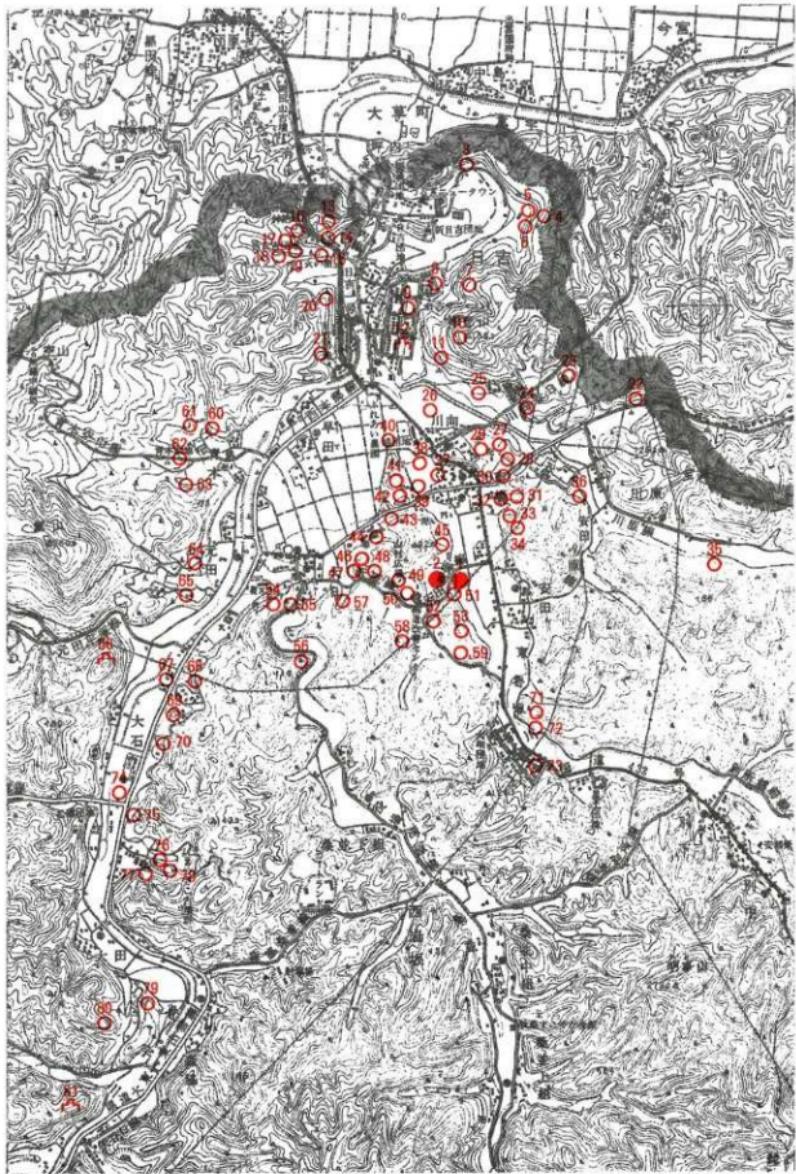
調査の結果、工事予定地内に周知の遺跡3カ所（安田古墳群1号墳・谷ノ奥古墳群・山崎遺跡）と、より詳細な試掘調査を必要とする地域4カ所（安田地区の水田・細田古墳群東の山頂・外輪谷横穴墓群北の斜面・別所間夏堂跡）を確認した。

この後、遺跡保護のための協議がなされたが、計画変更は困難との結論に達し、平成6年度から八雲村教育委員会が主体となり調査を行うことになった。

平成6年度は、安田古墳群1号墳の本調査・外輪谷横穴墓群北の斜面の試掘調査・外輪谷横穴墓群12号穴の本調査・安田地区にある水田の試掘調査を行った。

第1表 平成6年度国道432号道路改良工事に伴う発掘調査工程表

名 称	調査内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
安田古墳群 1号墳	本 調 査					8/8~8/26							
外輪谷横穴墓群 北の斜面	試掘調査						8/29~9/21						
外輪谷横穴墓群 12号穴	本 調 査							10/19~11/16					
安田地区的水田	試掘調査										2/10~3/7		



第1図 位置と周辺の遺跡 (1 : 25,000)

第2表 周辺の遺跡一覧表

番号	名 称	種 別	概 要	番号	名 称	種 別	概 要
1	安田古墳群	古墳群	円墳2基	42	中山五輪塔群	古墓	石塔、現位置移動
2	外輪谷横穴墓群	横穴墓群	12穴、刀	43	中山古墳群	古墳群	方墳3基
3	和田平横穴墓群	横穴墓群	3穴、埋没	44	神定寺遺跡	住居跡	陶器器、須恵器、石器
4	八雲西古塚山古墳群	古墳群	方墳47基	45	谷ノ奥古墳群	古墳群	方墳2基、円墳1从
5	大円寺上古墳群	古墳群	円墳2基	46	神定寺横穴墓群	横穴墓群	6穴
6	大円寺遺跡	散布地	土師器	47	折原横穴墓群	横穴墓群	3穴
7	大谷古墳群	古墳群	方墳2基、子持壺	48	神定寺古墳群	古墳群	方墳10基
8	御崎谷遺跡	散布地	須恵器、土師器、埋没	49	北折原遺跡	古墳地	方墳1基、横穴2穴
9	小星谷古墳群	古墳群	方墳3基、消滅	50	折原中堤北遺跡	散布地	須恵器
10	雨乞山遺跡	祭祀遺跡	土師器	51	安田横穴墓群	横穴墓群	2穴
11	雨乞山古墳群	古墳群	方墳2基	52	折原上堤東遺跡	住居跡	堅穴住居跡、掘立柱建物跡
12	東岩坂要害山城跡	城跡	山城、石垣、消滅	53	松ノ前古墳	古墳	
13	落井古墳群	古墳群	方墳10基	54	岩坂神社横穴墓群	横穴墓群	須恵器
14	落井東横穴墓	横穴墓	1穴開11	55	大口空横穴墓群	横穴墓群	4穴確認、須恵器
15	岩坂陵墓参考地	古墳	円墳	56	岩屋口横穴墓群	横穴墓群	8穴
16	落井西横穴墓群	横穴墓群	11穴以上	57	折原下堤遺跡	散布地	須恵器、土師器
17	神納古墳群	古墳群	5基	58	折原中堤遺跡	住居跡	堅穴住居跡、土師器
18	神納遺跡	散布地	須恵器、土師器	59	折原原遺跡	住居跡	堅穴住居跡、弥生土器
19	神納横穴墓	横穴墓		60	青木横穴墓群	横穴墓群	2穴確認
20	岩海古墳群	古墳群	方墳1基、円墳1从	61	椎木谷遺跡	散布地	須恵器、土師器
21	勝負谷古墳群	古墳群	方墳2基、円墳2基	62	青木谷遺跡	住居跡	堅穴住居跡、掘立柱建物跡
22	普三郎谷横穴墓群	横穴墓群	8穴	63	青木谷遺跡	散布地	須恵器、土師器、黒曜石
23	穴田遺跡	散布地	埴輪、円筒、土師器	64	古城遺跡	散布地	須恵器、土師器、簡文土器
24	原ノ前横穴墓群	横穴墓群	須恵器、鐵器	65	上元田遺跡	散布地	須恵器、土師器、黒曜石
25	尚乞山古墳	古墳	方墳、石棺式石室	66	大石城跡	城跡	山城
26	戸波遺跡	住居跡	須恵器、陶器器、漆器	67	雲場占墳	古墳	
27	上井古墳群	古墳群	方墳35基	68	桧越遺跡	散布地	須恵器、土師器他
28	増福寺古墳群	古墳群	方墳26基	69	掛合遺跡	散布地	須恵器
29	増福寺裏山古墳群	古墳群	方墳8基	70	大石窓跡	窓跡	須恵器
30	増福寺横穴墓群	横穴墓群	2穴確認	71	細田古墳群	古墳群	方墳2基
31	四歩市古墳群	古墳群	方墳6基	72	細田横穴墓群	横穴墓群	平入家形
32	四歩市横穴墓群	横穴墓群	28穴確認、須恵器	73	斜谷遺跡	散布地	消滅、大明神地
33	高丸横穴墓群	横穴墓群	4穴確認	74	田中社跡	神社跡	
34	高丸古墳群	古墳群	円墳2基	75	高野横穴墓群	横穴墓群	直刀、鐵鏃、斧他
35	星敏谷五輪塔群	古墓	五輪塔	76	松廻古墳群	古墳群	方墳4基以上
36	浜井場遺跡	散布地	須恵器、土師器	77	松廻横穴墓群	横穴墓群	8穴以上
37	紙屋遺跡	散布地	磨製石斧	78	松廻遺跡	土壤堆	須恵器
38	池ノ尻古墳	古墳	石棺式石室、須恵器	79	恩部遺跡	散布地	須恵器、土師器、黒曜石
39	前田遺跡	祭祀遺跡	自然河川跡、木製琴	80	恩部山横穴墓群	横穴墓群	
40	山崎遺跡	散布地	須恵器	81	糸形山城	城跡	
41	中山遺跡	散布地	須恵器、土馬				

Ⅲ 安田古墳群 1号墳

III 安田古墳群1号墳

1 調査の経過と概要

安田古墳群1号墳は、径4m、高さ0.5mの円墳として知られていた。このため、墳丘部の全面発掘と、同尾根の40m南西の東向き斜面に安田横穴墓群が存在していたので、横穴の有無確認のため 2×5 mのトレンチ4本を設定して調査を行った。

調査は、平成6年8月8日より表土掘削を開始し、8月23日より遺構の精査を行った。この後、8月26日に全体写真の撮影、遺構の実測、地形測量を行い、現地での調査を終了した。

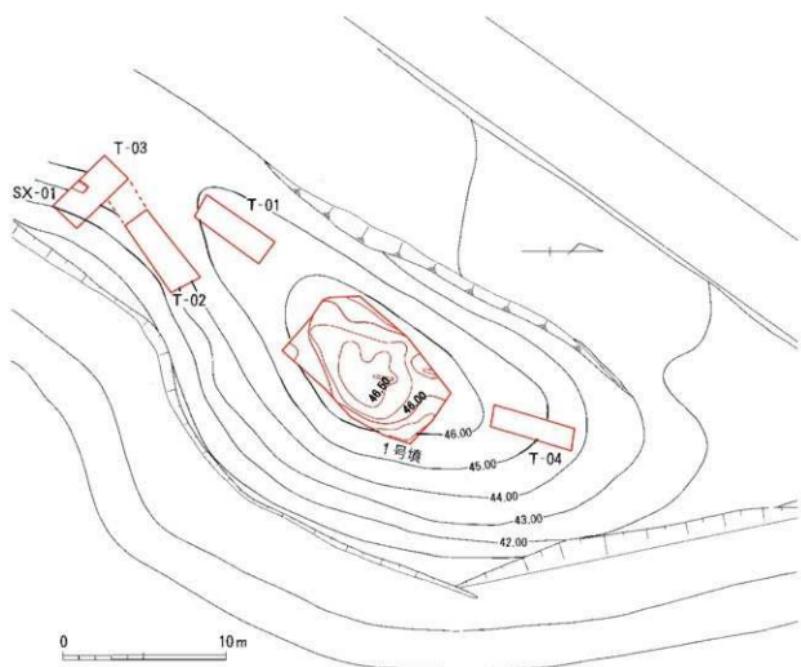
調査によりT-03トレンチより性格不明の掘り込み(SX-01)1個を検出した。遺物としては、T-01トレンチと1号墳と考えられる場所から須恵器の腰廻部の破片が1点づつ出土した。



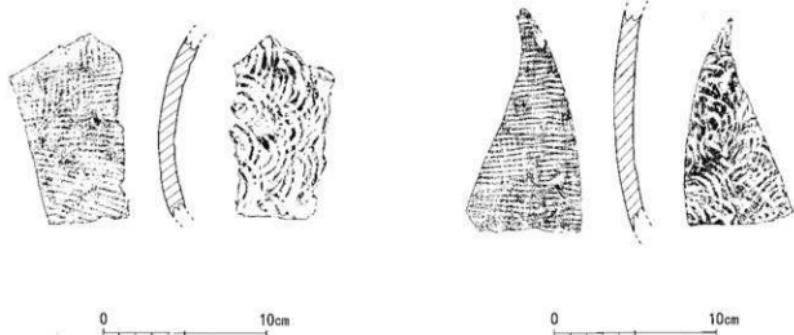
第2図 調査区配置図

2 1号墳（第3図）

丘陵から北東に向かって舌状に突き出した尾根の端に位置し、墳頂部で標高47.00mを測る。十文字に畦を残し掘削を開始したが、表層より20~25cmの深さで白色凝灰岩の地山を検出した。この後畦を取り除き精査を行ったが、主体部等の遺構は検出されなかった。土層の堆積は暗灰色上層1層である。



第3図 安田古墳群1号墳遺構位置図



第4図 安田古墳群1号墳出土遺物実測図

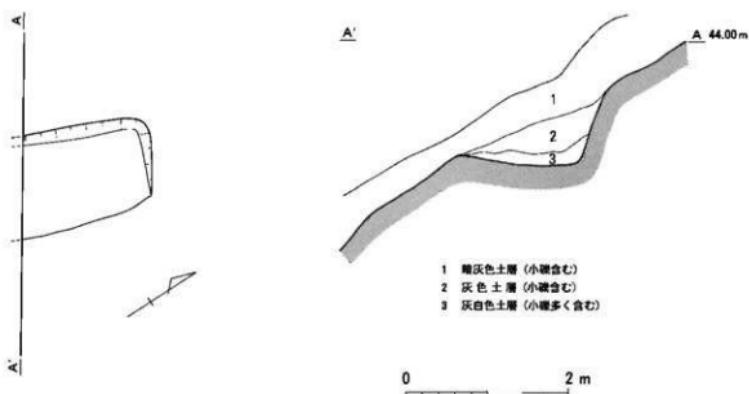
第5図 T-01トレンチ出土遺物実測図

遺物としては、須恵器の壺胴部の破片が暗灰色土層中から出土したが、破片のため時期が判るものではなかった。また、同層からは昭和54年の百円玉、ビニール製の肥料袋が出土しており、かなり攪乱を受けていた。

3 性格不明遺構（SX-01）（第6図）

T-03トレンチの標高43.50mを測る位置で検出された段状の遺構で、凝灰岩の岩盤に掘り込まれていた。大部分が調査区外となるため全容を把握することはできなかったが、検出した部分の規模は、長軸75cm、短軸49cm、比高差最大44.2cmを測る。

人為的なものであるが、遺構の性格、時期等は不明である。



第6図 性格不明遺構（SX-01）実測図

4 小 結

今回の安出古墳群1号墳の調査では、横穴の有無確認調査のために設定したT-03トレンチより時期不明の掘り込み1個を検出した。当初1号墳と考えられていた場所は尾根の自然な高まりであり、上体部等は検出されなかった。

出土遺物としては、T-01トレンチと1号墳の調査区より須恵器の壺胴部の一部が出土したが、破片のため時期の判るものではなかった。

IV 外輪谷横穴墓群12号穴

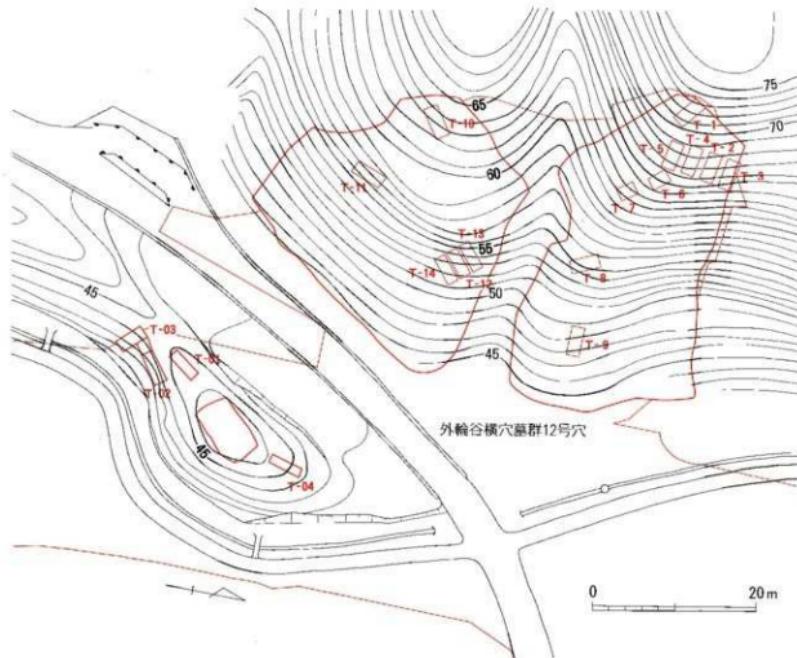
IV 外輪谷横穴墓群12号穴

1 調査の経過と概要

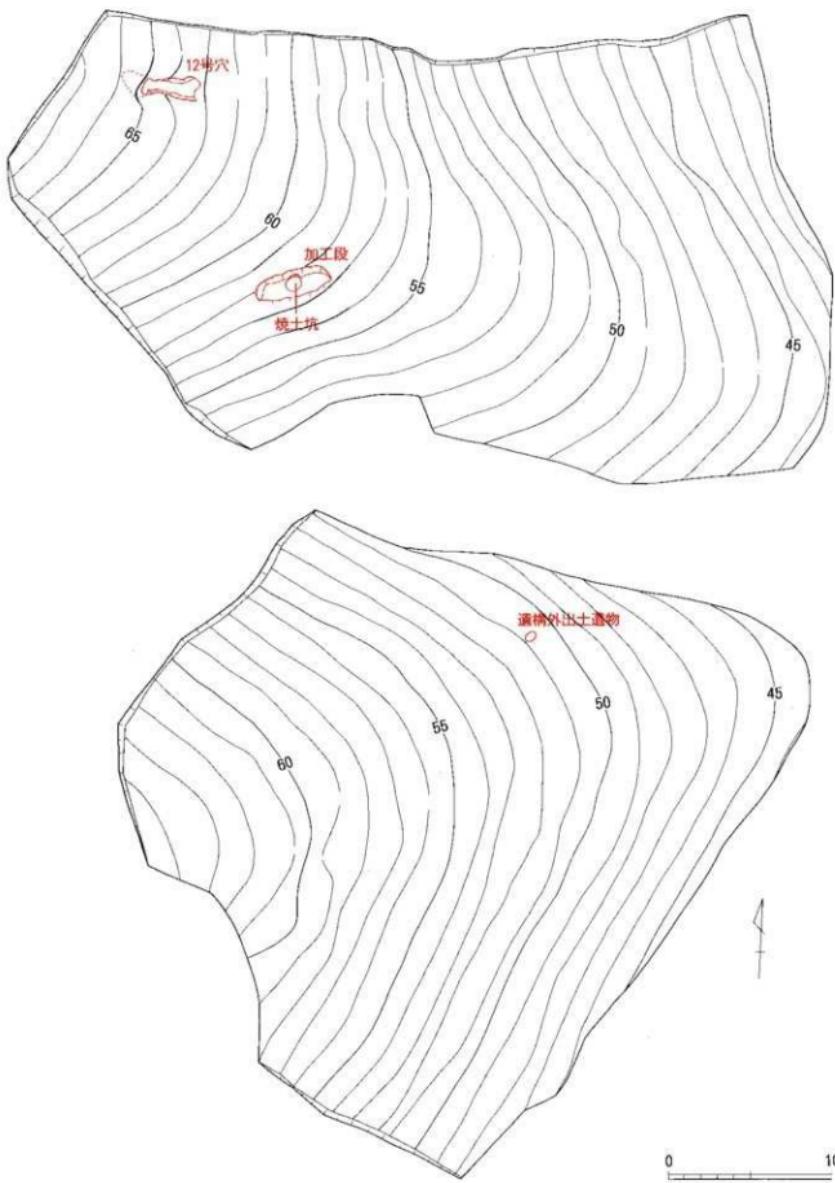
安田古墳群の位置する尾根の北西側、東向き斜面に存在する。同山腹の南側には外輪谷横穴墓群があり、確認できる横穴墓だけでも11穴を数える。工事予定地が同じような傾斜を持つ斜面であったため、横穴墓の有無確認のための試掘調査を実施することになった。

調査は 2×5 mトレンチ14本を設定し、8月29日から9月21日の間に掘削作業を行った。試掘調査により横穴1穴を検出したため、外輪谷横穴墓群12号穴として文化財保護法上の手続きをとった。この後9月28日から10月10日の間に重機による表土のはぎ取りを行い、10月19日より本調査を開始した。11月7日に遺構の実測、11月11日から11月16日の間に地形測量と全体写真の撮影を行い現地での調査を終了した。

今回の調査により、丘陵斜面より横穴墓1穴・加工段1段・焼土坑1個を検出した。また、遺構外ではあるが須恵器の蓋坏3セットが出土した。



第7図 調査区配置図



第8図 外輪谷横穴墓群12号穴遺構位置図

2 12号横穴墓（第8・9図）

立地（第8図）

調査は北西隅付近の東向きの斜面に地山を穿って開口する。墓道部の地山面で標高63.50mを測り、主軸はほぼ東西方向にあたる。

墓道（第9図）

現状で長さ2.35mを測る。急峻な斜面に立地しており、もう少し長かった可能性がある。横断面形は上開きの「コ」の字形で、墓道床面幅0.6~1.1m、上端幅0.9~1.4mを測る狭長なものである。床面は羨門部に向かって徐々に高く傾斜している。

羨門（第9図）

羨門部床面には幅8~10cm、深さ最大5.8cmを測る溝があり、それはそのまま左右の壁に抉り込みとして続いている。閉塞装置をはめ込むためのものと考えられ、溝の手前からはそれを固定するために置いたと考えられる人頭大の川原石1個を検出した。

羨道（第9図）

羨道は入り口付近で幅0.44mを測るが、玄門と玄室の境は明瞭ではない。高さは羨門部から玄室にかけての大井が大きく崩壊しているため不明である。

玄室（第9図）

玄室は不整形で、長軸方向が1.87m、短軸方向が1.06mを測り、ドーム形の大井をもつ。玄室内からは扁平な川原石を使った屍床が検出された。大きさや形が様々な石をベット状に敷き詰めているので、上軸は南東~北西方向にある。屍床の現状での規模は、長さ約1.60m、幅約0.7mを測る。

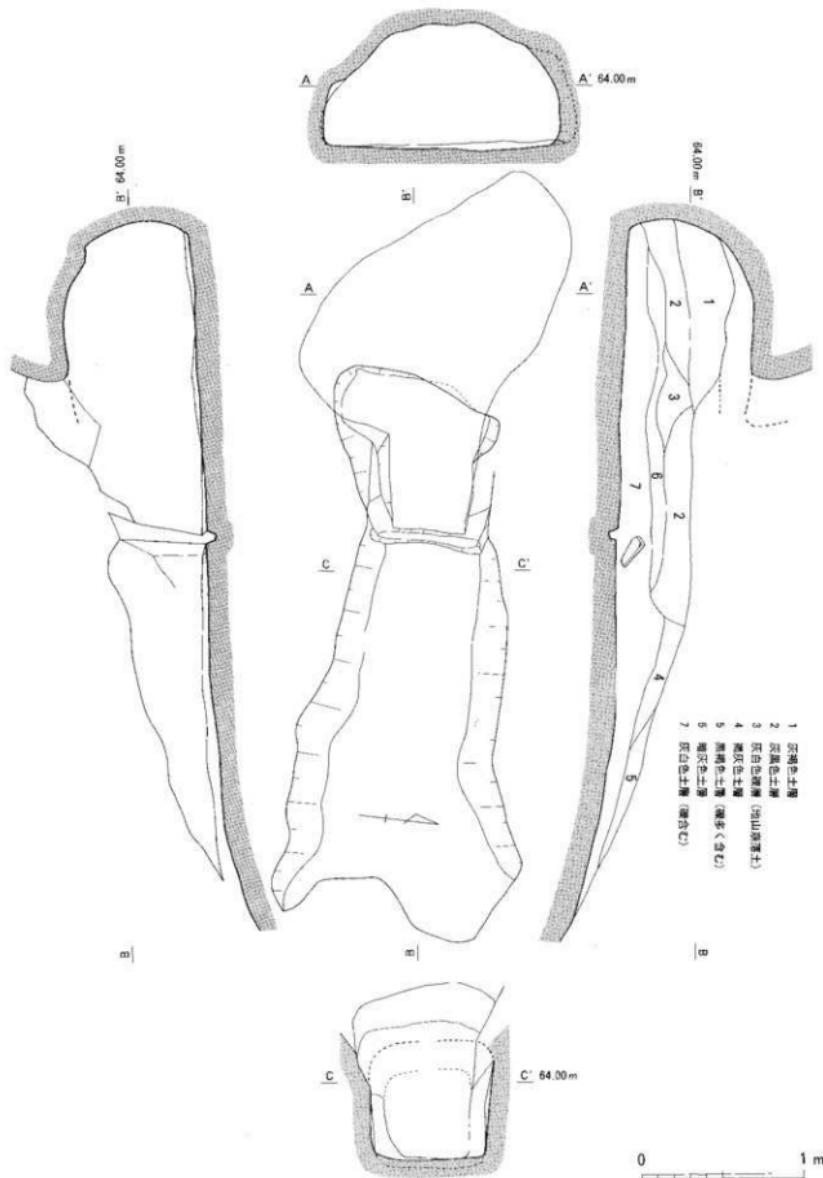
埋土堆積状況（第9図）

埋土の堆積状況は、玄室内にまで多量の土砂が堆積していた。また、羨道部の土層を観察すると、後に人為的に動かしたと考えられる不自然な堆積がみられた。

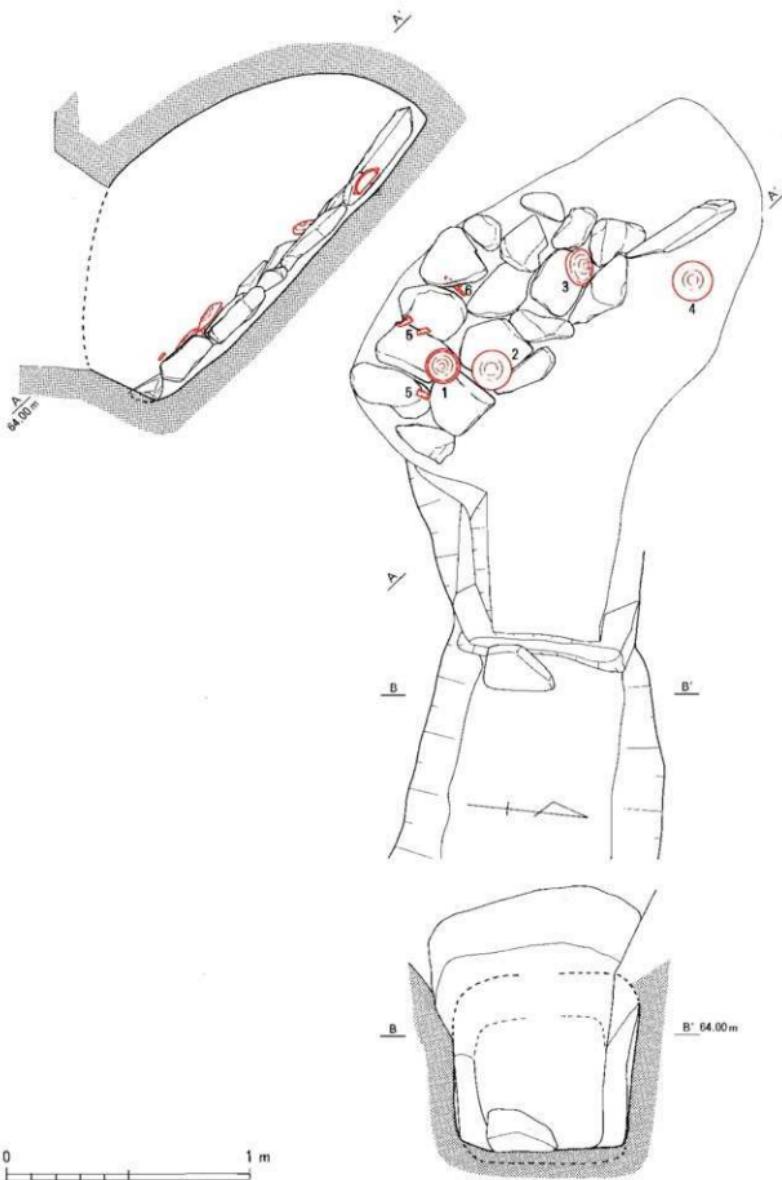
遺物出土状況（第10図）

遺物としては、玄室内から須恵器の蓋2個（第11図1・3）、坏身2個（第11図2・4）、鉄鎌1個（第12図5）、鉄鎌1本（第12図6）が出土した。須恵器はいずれも完形の状態で出土している。セット関係は、出土地点より（1）-（2）・（3）-（4）と考えられる。

須恵器（第11図1~4）（1）は、屍床上より出土した蓋で、枕を類推させる。外面肩部に2条の沈線により稜を巡らし、大井部にはヘラケズリを施す。口縁内面には沈線が巡る。法量は、口径13.4cm、器高3.8cm、重量197.6gを測る。（2）は、（1）と同様枕を類推させる坏身で、口縁部を下にした状態で出土している。口縁がやや長く内傾して立ち上がり、端部は平坦なものである。底部にはヘラケズリが施される。法量は、口径11.7cm、器高3.6cm、重量185.2gを測る。（3）は、屍床の石と石の間にしっかりととかました状態で出土した蓋で、石を動かさないと取り上げることができなかった。外面肩部に浅い2条の沈線を巡らすが、途中不明瞭になっているところもある。天



第9圖 12号横穴墓遺構実測図



第10図 12号横穴墓遺物出土状況実測図

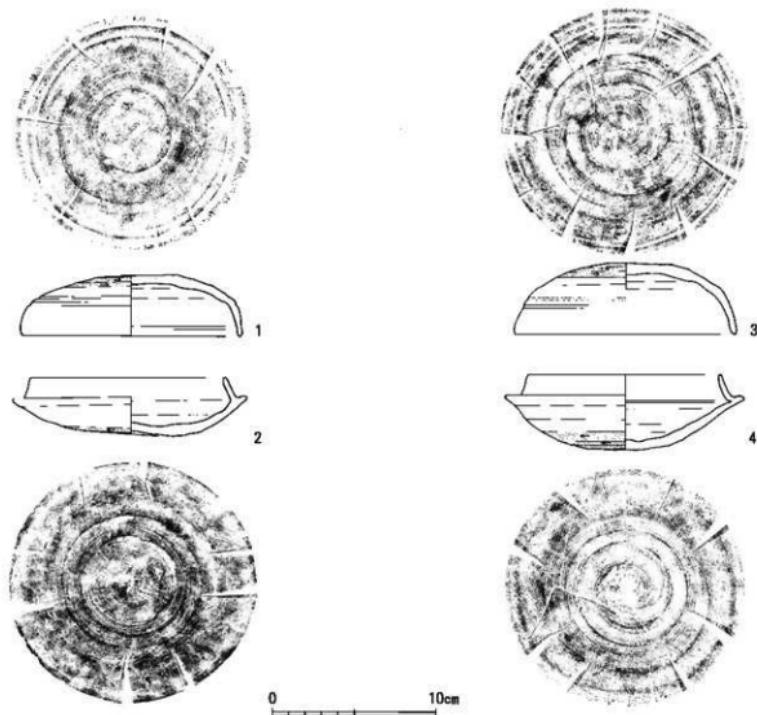
井部にはヘラケズリを施す。法量は、口径13.3cm、器高4.4cm、重量203.8gを測る。(4)は、屍床よりややはざれた場所から出土した壺身で、口縁部を下にした状態で置かれていた。口縁部はやや長く内傾して立ち上がり、内面の口縁部と体部の境は折り返され、深い溝が巡る。底部にはヘラケズリが施される。法量は、口径11.5cm、器高4.6cm、重量230.0gを測る。

鉄鎌(第12図 5) 尸床上より3つに分かれて出土したものである。ゆるやかに弧を描き、若柄部は折り返されている。全長15.5cm、幅2.2~3.2cm、厚さ0.3~0.6cm、重量45.6gを測る。

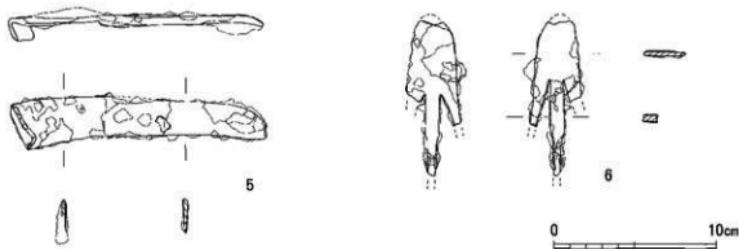
鉄鎌(第12図 6) 玄室内の精査時には解らなかったが、屍床を取り外した時点で川原石の下から出土した。「ハ」の字状にひろがる逆刺をもち、幅広い扁平な鎌身に横断面長方形をなす箇被がつき、茎が続く。茎部にはわずかに木質が残っている。全長は先端を欠損しているため本来の長さは測り得なかったが、厚さは0.4~0.6cmを測る。

時 期

出土須恵器から築造は、人谷編年出雲⁽⁸⁾4期と考えられる。



第11図 12号横穴墓出土須恵器実測図

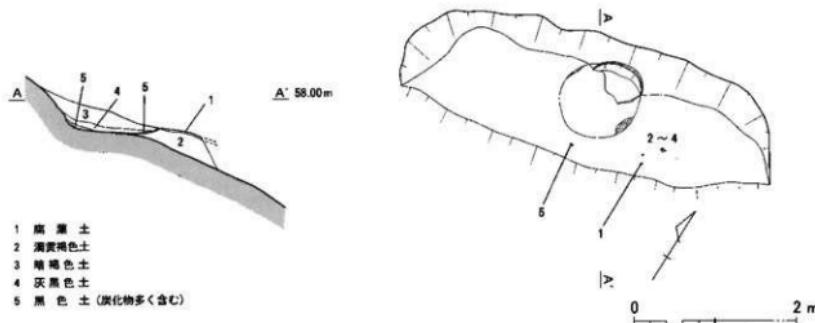


第12図 12号横穴墓出土鉄器実測図

3 加工段 (第13図)

12号穴の南東、標高57.25～58.00mを測る南東向きの斜面で検出されたものであり、比高差最大49.6cmを測る。加工段下には現状規模で1.2×4.20mを測る半坦面をもち、焼土坑1個を検出した。

出土遺物としては、加工段半坦部の床面から縄文十器4片（第14図1～4）と須恵器1片（第14図5）が出土したが、細片のため時期の判るものではなかった。



第13図 加工段・焼土坑実測図



第14図 加工段出土縄文土器・須恵器実測図

4 焼土坑（第13図）

加工段の平坦面の壁際から壁を共有する形で検出された焼土坑である。北側は非常に良く焼き締まっていたが、斜面下側となる南側の壁は残っていなかった。床面に残った炭跡から平面形は円形と考えられ、底径約90cm、残存部の深さ最大29.2cmを測る。

加工段との新旧関係は、同時期に造られたものと思われるが、加工段（古）－焼土坑（新）の可能性もある。

5 遺構外出土遺物（第15・16図）

12号穴を検出した斜面の南側、谷を挟んで隣接する北東向きの斜面、標高51.50mを測る位置に設定したT-12トレントとその周辺から須恵器の蓋坏3セットが試掘調査時に出土した。セット関係のわかるものに（3）－（6）がある。（3・6）は完形で、重機掘削時にT-12トレントとT-13トレントの間の畦より蓋と身が合わさった状態で出土した。

（1）は、天井部に外傾する輪状つまみをもち、口縁端部はなだらかに下垂するものである。調整は天井部外面が回転ヘラケズリを行い、内面上部がナデ、その他は回転ナデを施す。法量は口径13.8cm、摘み部径4.7cm、器高3.1cmを測る。

（2）は、天井部に外傾する輪状つまみをもち、その内側が僅かに陥没する。体部は平坦で、口縁端部は直角に近い角度で下垂する。調整は天井部外面が回転ヘラケズリを行い、内面上部がナデ、その他は回転ナデを施す。法量は口径15.0cm、摘み部径5.6cm、器高2.2cmを測る。

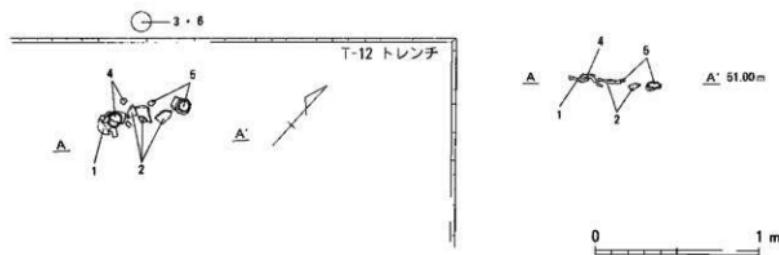
（3）は、天井部に外傾する輪状つまみをもち、口縁端部は下垂するものである。調整は天井部外面が回転ヘラケズリを行い、内面上部がナデ、その他は回転ナデを施す。天井部外面に「×」のヘラ記号が施されている。法量は口径14.3cm、摘み部径4.8cm、器高3.0cm、重量189.6gを測る。

（4）は、口縁部が緩やかに湾曲しながら立ち上がり、端部は湾曲せずにそのまま伸びる。底部は静止糸切りの後、「ハ」の字に開く高台を張り付けるものである。調整は全面回転ナデが施される。法量は口径13.5cm、高台径7.9cm、器高4.9cmを測る。

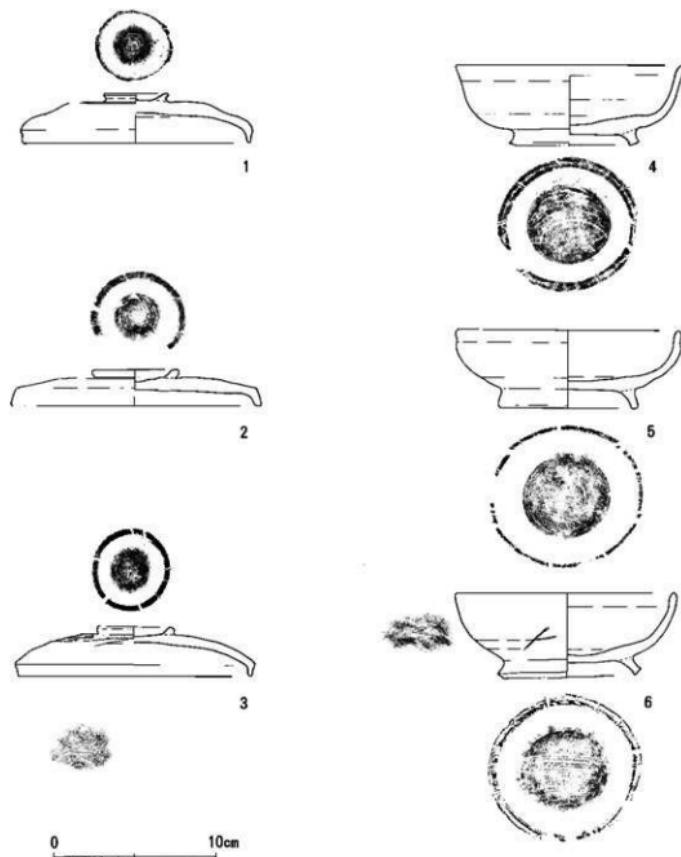
（5）は、口縁部が緩やかに湾曲しながら立ち上がり、口縁端部外面が僅かにくびれる。底部は静止糸切りの後、外傾する高台を張り付けるものである。調整は全面回転ナデが施される。法量は口径13.5cm、高台径8.2cm、器高4.8cmを測る。

（6）は、口縁部が緩やかに湾曲しながら立ち上がり、底部は静止糸切りの後、「ハ」の字に開く高台を張り付けるものである。調整は全面回転ナデが施される。体部外面に「×」のヘラ記号が施されている。法量は口径13.3cm、高台径8.6cm、器高5.3cm、重量238.5gを測る。

時期は、細かい特徴に違いをみて取れるが、高広Ⅲ^(注)B期と考えられる。



第15図 遺構外出土須恵器出土状況実測図



第16図 遺構外出土須恵器実測図

6 小 結

外輪谷横穴墓群は現在のところ12穴が知られている。このうち11穴（1～11号穴）は南向きの斜面に穿たれ、今回調査を行った12号穴だけが北東向きの斜面に離れて存在する。

同横穴墓群のうち1号穴は完全に開口している。12号穴の南方60mの位置に存在するこの横穴墓は、玄室の床面はほぼ正方形で、幅1.95m、奥行き1.8m、最大高1.16mを測る。壁はほぼ垂直で、軒先を約5cmほど突出させ天井と壁の区別を明確にしていることから整正家形だと思われるが、天井部はアーチ形である。地元の人の話によると、開口した当時、長さ30cm、幅約2cmの刀剣が出土したようだが、すでに紛失してしまい今は無いとのことである。

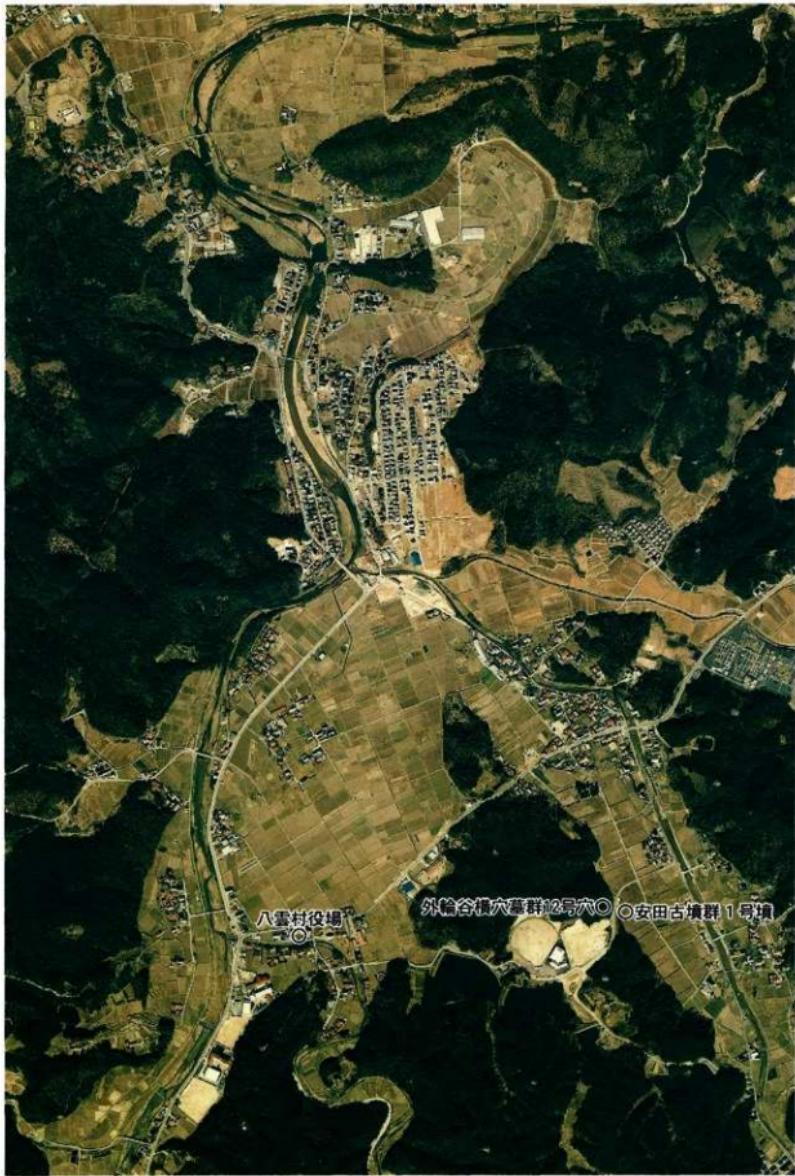
12号穴は玄室の平面形は不整形で、造りも雑であるが、屍床に使われている川原石は丁寧に敷き詰められていた。屍床の北西部分に川原石がないことや、（2）の蓋が石と石の間にしっかりととかませてあった点が注目されるが、その使途は定かでない。

12号穴の時期であるが、副葬品の須恵器蓋坏が大谷編年出雲4期にあたることから、古墳時代後期前半と思われる。また、遺構外出土の須恵器蓋坏3セット（第16図1～6）であるが、横穴墓の時期よりやや下り、高広ⅢB期（7世紀末から8世紀初め）のものと考えられる。周辺に遺構はなく、外輪谷横穴墓群を意識して置かれたものと思われ、追善供養などの祭祀的要素が考えられる。今後の資料の増加を待ちたい。

註

- (1) 大谷晃二「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『鳥根考古学会誌』第11集 1994年3月
- (2) 鳥根県教育委員会「高広遺跡発掘調査報告書」 1984年3月

図 版



遺跡周辺空中写真

図版2（安田古墳群1号墳）



安田古墳群1号墳全景（西より）



発掘調査前全景（南東より）

図版3（安田古墳群1号墳）



性格不明遺構（S X-01）全景（北東より）



安田古墳群1号墳発掘作業風景

図版4 (外輪谷横穴墓群12号穴)



外輪谷横穴墓群12号穴調査地全景（北東より）

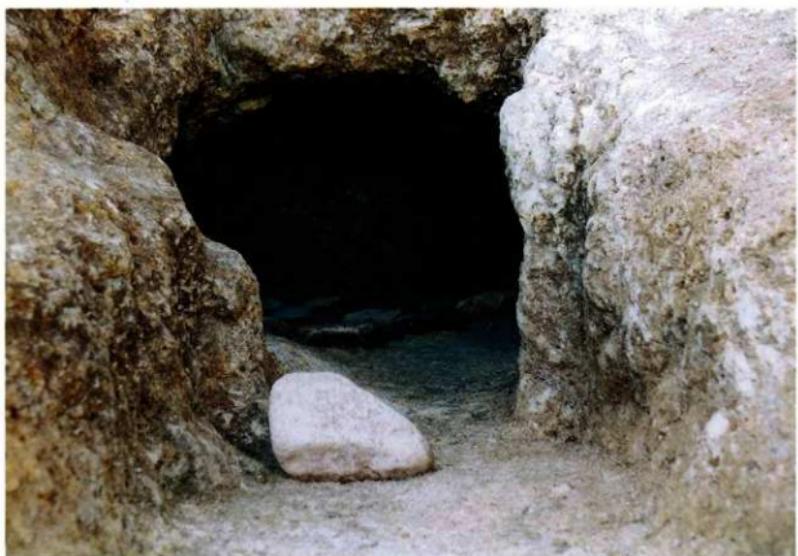


12号横穴墓全景（東より）

图版5 (外輪谷横穴墓群12号穴)



12号横穴墓玄室内遺物出土状況（南東より）

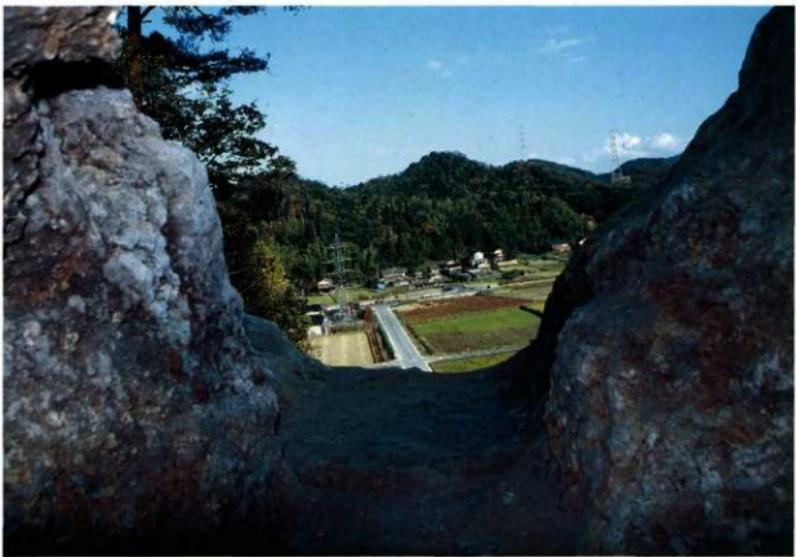


12号横穴墓閉塞石検出状況（東より）

図版6（外輪谷横穴墓群12号穴）



12号横穴墓縦断土層（南東より）



12号横穴墓玄室内より外を望む（西より）

図版7 (外輪谷横穴墓群12号穴)



加工段全景 (北東より)



焼土坑全景 (南西より)

図版8（外輪谷横穴墓群12号穴）



遺構外（T-12トレンチ）遺物出土状況



外輪谷横穴墓群12号穴発掘作業風景

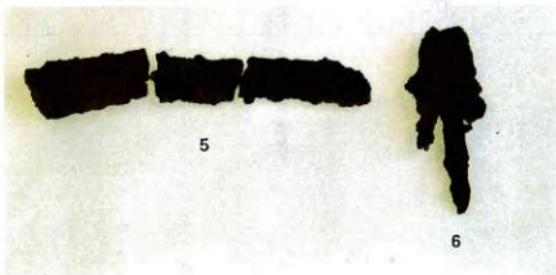
图版9 (外輪谷横穴墓群12号穴)



12号横穴墓出土須恵器



12号横穴墓出土須恵器

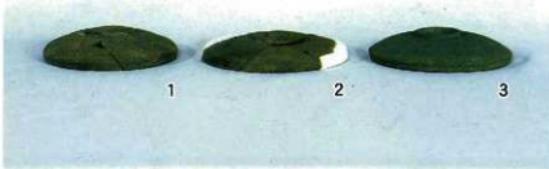


12号横穴墓出土鐵器

图版10 (外輪谷横穴墓群12号穴)



加工段出土繩文土器・須恵器



遺構外出土須恵器



遺構外出土須恵器

報告書抄録

ふりがな	やすだこふんぐんいちごうふん・そとわだによこあなばぐんじゅうにごうけつ
書名	安田古墳群1号墳・外輪谷横穴墓群12号穴
副書名	一般国道432号道路改良工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書1
卷次	I
編集者名	川上昭
編集機関	八雲村教育委員会
所在地	〒690 2103 島根県八束郡八雲村西岩坂316番地 Tel(0852)54-2478

発行年月日 平成11(1999)年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		調査期間	調査面積
		市町村	遺跡		
安田古墳群 1号墳	島根県八束郡 大字東岩坂	32305	F 3 8	19940808~ 19940826	8.6 m ²
外輪谷横穴墓群 12号穴	島根県八束郡 大字東岩坂	32305	F 3 9	19940829~ 19941116	2,168 m ²

調査原因 一般国道432号道路改良工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
安田古墳群 1号墳					尾根の自然な高まり。
外輪谷横穴墓群 12号穴	横穴墓	古墳時代	横穴墓 1穴 加工段 1段 焼土坑 1個	縄文土器・須恵器・鉄器(鉢、鎌)	川原石による尾床。

安田古墳群1号墳
外輪谷横穴群12号横穴
平成11(1999)年3月

発行 島根県八雲村教育委員会
島根県八束郡八雲村大字西岩坂316番地
印刷 柏村印刷株式会社
島根県松江市春山町150-5